

IEC/TC 100サンディエゴ会議報告

本年9月25日(月)～29日(金)サンディエゴのSolamar Hotelの会議室でIEC(国際電気標準会議) TC 100(AV・マルチメディア、システム及び機器)の総会及び傘下グループの会議が開催され、活発な審議が行われました。その中から、いくつかの重要な議案について紹介します。



Felland国際議長と由雄 国際幹事

TC 100概要

IEC/TC 100(AV・マルチメディア、システム及び機器): 1995年10月に設立2004年1月より日本が幹事国を務めており、現在、国際幹事: 由雄(パナソニック)、国際副幹事: 佐久間(東芝)、寺崎(パナソニック)、Pメンバー(投票権を持つ国): 19カ国、Oメンバー(オブザーバーの国): 25カ国、傘下に14のTA(Technical Area)がある。なお、TC 100の受託審議団体はJEITAであり、TC 100国内委員会を運営している。

A. TC 100 Workshop

9月27日、TC 100 Workshopを、IECと他のSDOとの協力による標準化をテーマに開催しました。TC 100メンバーだけでなく米国CTA(全米民生技術協会)メンバーも参加し、盛況のうちに終了しました。

主な項目

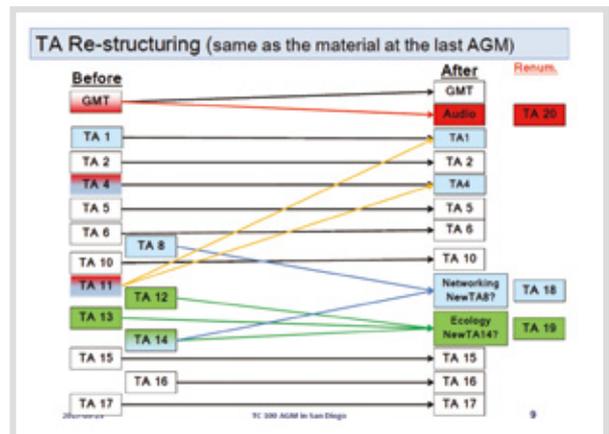
- ① TC 100の紹介
- ② USB-IFとの協力による利益
- ③ AESとのオーディオ分野の協力
- ④ NHKの8Kビデオとオーディオの規格化
- ⑤ IEC中央事務局によるレポート
- ⑥ パネルディスカッション



パネルディスカッション

B. TC 100のTA再編

TC 100は、他のTCと異なり、TA(Technical Area)制にて組織運営をしており、現在、傘下に14のTAがあります。昨年10月開催のフランクフルト会議にて、将来のビジネスプランを見据えTAを再編することになり、この1年間関係者と意見調整を行った結果、今回のサンディエゴ会議にてTAを再編し、a)Audio、b)Networking、c)Ecologyの3つのTAを新たに設立することが承認されました。



C. 新TA 17(車のマルチメディア)の規格化

① IEC 63033 Drive Monitoring System規格とは

車両の全周囲を複数のカメラによる合成映像を用いて、

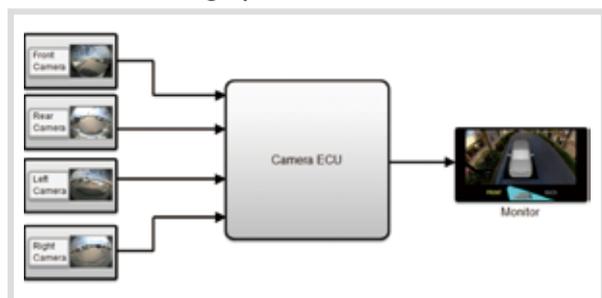


自由視点でモニタするDrive Monitoring System規格として、今年5月に、Part 1: Generalが発行されました。

②サンディエゴ会議での議論

現在、録画方法を規定するPart 2: Recording methods of the drive monitoring systemと、測定方法を規定するPart 3: Measurement methodsを策定中であり、サンディエゴの会議では、Part 3で、ISO 16505, Camera Monitor Systemsの測定方法を参照し、UN REGULATION NO.46、NO.125に規定されている視野に完全対応することが承認されました。

【Drive Monitoring System】



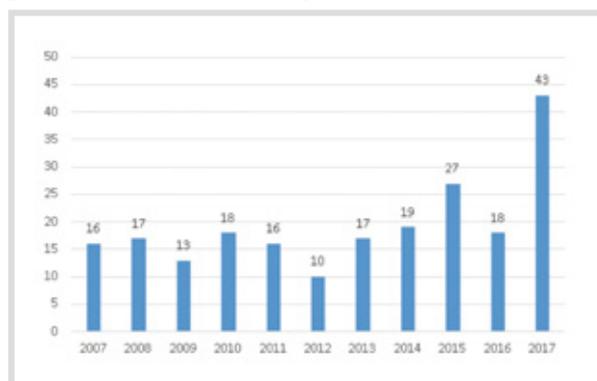
D. VRに関するStudy Session(検討会議)の発足

2017年5月にシンガポールにて開催されたAGS会議にて、中国から提案のVRに関する規格についての提案があり、サンディエゴにて第1回目のStudy Sessionが開催されました。ここでは、a)key features、b) typical use cases、c)customer requirementsについての議論を行い、まずはTR (Technical report)を作成することになりました。

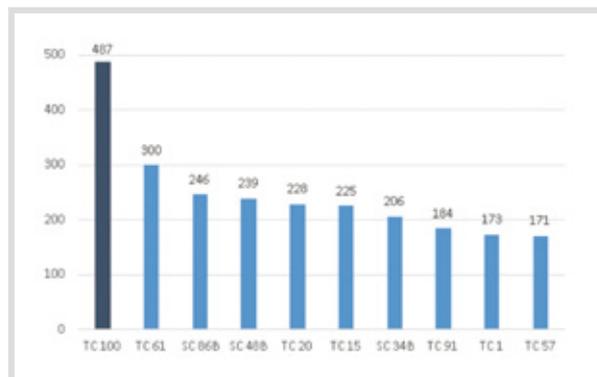
E. TC 100規格発行数

TC 100国際幹事より、TC 100における規格発行数について、右記のような報告がありました。

【TC 100規格発行数の推移】



【これまでのTC 100規格発行数】



F. TC 100規格発行数

TC100国際幹事より、今後の予定について、下記のような説明がありました。

- ・2018年 5月：AGS/AGM会議：ベルギー
- ・2018年10月：Plenary会議：韓国
- ・2019年 5月：AGS/AGM会議：欧州
- ・2019年10月：Plenary会議：中国



Solamar Hotel